



鶏 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

イエスの言葉

『あなたがたは、神と富とに仕えることはできない』

聖書(マタイ福音書 6章 24節)

牧師 河合裕志

神に仕える、専心仕える、礼拝を捧げる。一方で富に仕える、これを神のようにして崇める、これはできないよ、とイエスは言う。このすぐ前ではこんなことを言ってる。

『だれも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである』。

二人の主人、それはここではイエスによれば神と富という二人の主人ということになる。通常二人の主人に同程度に専心仕えることは難しい。それは二人の殿様を持つようなもの。余程器用であれば二人の殿の家来になることも出来るものか。これはいつバレルかわからない。かなり危険な綱渡り。

しかし神と富ということであれば仕えることが可能では？専心神に仕える、専心富の追求に励む。これは両立するのでは？現に神を信じる者で億万長者がいるのでは？確かにそんな人もいるのかも。するとイエスの言葉はどんな具合に考えたらいい？

多くの場合富とその追求を至上とすると神礼拝から離れる、これは現実としてある。富、財産が結局力を持っていると思われて来ると神だとか、信仰だとかは馬鹿らしく

なる。それよりは金、金、金ということに。

ただ富そのものがすぐに悪ということではない。昔イスラエルの民は遊牧民だった。その時には羊や牛が富であり、これを沢山に持つ者は神の祝福に与っていると見なされた。やがてこの民はパレスチナに定住。すると土地や畑の収穫物が富に。売買で富を増やす者も。

そして中には不正な手段で富を得ようとする者が出て来、巨万の富を手にする者も現われて来た。一方でその日の食事にも事欠く人々が生まれて来る。そんな時神はホセアといった預言者を遣わし、神を恐れ正義に立ち帰るよう訴えさせた。

富自体は悪ではないが不正にこれを得たり、これを専ら自分のためにのみ使用して貧しい者をかえりみない時、それは悪となる。この姿勢は神を第一として恐れ敬わないところに原因がありそう。

神を第一とし富を第二とする。この時人は富に仕える人から富を使用する人に、神の心にそってこれを用いる人になる。正しく儲けることは結構なこと。この利益を自己の生活の充実と共に神と人に喜ばれるように使うことが出来れば幸いなこと。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時